

## 日本助産学会ニュースレター

## 巻頭言

第17回助産学会学術集会へのお誘い  
 うまんちゅぬ生命、守り伝える助産ケア  
 — 沖縄言葉と日本一を誇る沖縄県の出生率 —

第17回助産学会学術集会会長 加藤尚美

第17回日本助産学会学術集会は2003年3月22日(土)～23日(日)に沖縄県宜野湾市にあるコンベンションセンターで開催いたします。

さて、「うまんちゅぬ生命、守り伝える助産ケア」は、第17回日本助産学会のメインテーマです。沖縄では、沖縄言葉を若い人にも伝えていこうという市民の取り組みが高まっているようです。公設市場でのオバアとの買い物でのやりとりをすると益々興味がわいてくるでしょう。そこで、本学会も沖縄開催と言うことで沖縄言葉を少しばかり入れてみることにしました。沖縄言葉は、沖縄方言、琉球語、島言葉ともいいます。奄美以南の琉球文化圏ではなされる言葉の総称ですが、琉球内でも首里ことばや宮古ことば、八重山ことばなど地域により多岐に分かれているようです。とはいえ、沖縄言葉も日本の祖語から分かれているので、文法や語源などはヤマト口（日本語）とあまりかわらないが、発音がアイウの三母音に変化しているの、耳で聞くと外国語のような印象を受ける。母音が変化した語の例では、目＝め→ミー、手＝て→ティ、毛＝け→キー、黒＝くろ→クルーです。

本学会のメインテーマの「うまんちゅ」とは、万人（すべての人）という意味です。また、沖縄では厳しい戦争を体験しその中から生まれた「命どう宝」という言葉も大切にしております。平時においても「命は宝」です。この命の重みを助産師は誰よりも感じ取っています。助産師はすべての人々の命、健康を守り、そして未来へとつなげて行かねばなりません。

沖縄県は昭和47年5月15日27年に及んだ米国からの支配に幕を閉じ、今年は本土復帰30年を迎えております。その沖縄県が日本一といわれるものを上げてみると、都道府県別の百歳以上の高齢者比率は13年間連続トップであり長寿県として知られているところであります。また、出生率も28年連続トップであり、合計特殊出生率も全国平均より0.5人多い1.83人です。母親の出産年齢は19歳未満の割合は全国の2倍以上と高いいわゆる若年妊娠が多く、離婚率も16年連続して全国一である。このような中で若年妊娠や離婚、そして子供の数が多いことも、家族の結束を何よりも大事にする文化があるからでしょうか。沖縄は、ヨコ型社会といわれ組織のタテ型の人間関係よりも、血縁や地縁を優先する共同体のようです。親戚や一族の血のつながりを重んじる風習が今でも残っており、助け合いの精神が大盛です。そして、オバアは家族の中柱として現存しております。母子保健の他の側面からみると、新生児死亡率、周産期死亡率などは5位以内に入っ

ており、乳幼児や妊産婦を取り巻く状況は厳しいものであります。沖縄での助産学会は、今後の母子保健の発展に寄与し、助産師の活躍が期待されるところであります。イチャリバチョーデー（行き会えば兄弟）という言葉は日常会話によく出てきます。学会でもこの言葉がきつときかれることでしょう。

沖縄県は、辛い過去の重みが今なお存続し、難題を残しておりますが、沖縄の主体を大切にしながら変革し、守りつづけている文化が沢山あります。そして、四季折々、大きな木、そして小さな枝々に花々が咲き明るい空とマッチして更に美しく、何時でも楽しめる沖縄です。3月は暖かな日々です。学びと共に日々の心身を癒してくれると思います。多くの皆様の来県をお待ちしております。

## 思春期保健相談室の窓辺から（その1）

エス・アール・ハウス（Sexual & Reproductive Health Care House）

助産師 番内和枝

ある日、性教育に向いた小学校で養護の先生がこんな話をしてくれた。小学校5年生（10歳）の女の子が「私がしっかりしていないと、またママは男をつくって出て行っちゃうからね、大変なのよ……。」という。その女の子の両親は彼女が小さい時に離婚しており、その後母親は新しい恋人が出来るとその人について出ていってしまうという事を繰り返すために、10歳の彼女が妹の面倒を見ながら学校に通う。とかく学校も休みがちなので家庭訪問もするけれど、母親はいつ訪ねても留守でない。子どもながらその子は生きる術や生活の中のさまざまな駆け引きまでも身につけている。時には「私は男を見る目はあるから」とまでもいう。こんな子どもたちに今更、両親に愛されて生まれてきたとか、命の大切さなんてどう伝えたらいいのか考えれば考えるほど分からない、というのである。しかもその地区には、このように変に大人びて子どもらしくない言動をする子どもたちが増えているともいう。

20歳を過ぎてもなかなか親離れが出来なくて、結婚資金や夫婦で住む家さえも親に出してもらおうような、依存性の高い若者も増えている昨今の状況を思うと、たかだか10歳のこの子どもたちが背負ってきたものの重さを改めて考えさせられる。

性教育は、単に性器教育や月経教育ではない。心の教育であり、個人の生き方そのものに繋がる教育であると言われる。人間はその成長に合わせて、両親や家族、そして地域から社会へと、生活の幅が広がることで徐々にこれらの基本は培われる。それはもちろん社会環境やその国の文化、両親や家族の養育態度に大きく影響されることはいうまでもない。まして幼・小児期に身についたものほど、それを変化させることはとても難しい。しかし、どこかでチャンネルを切り替えなければ、虐待やDV（Domestic Violence）がそうであるように、また次の世代に同じようなことが引き継がれる。

私たち思春期保健相談員が、少しでもそんなチャンネル切り替えの役に立つことができればと思う日々である。

## 平成14年度助産学会ワークショップの御案内

助産学会学術振興担当理事 加藤 尚美

2004年の東京で行われる助産学会の前に、会員の皆様の研究活動を支援するために、地方での学会とは異なり、講演会を企画しました。

年々研究も活発になり、目を見張るものがありますが、もっともっとよい研究ができないかと思案している会員も多いかと思えます。そこで、現在研究に取りかかろうとしている方、そして研究を進めている途中の方、まとめに入っている方と様々かと思えます。そのような皆様の疑問に答えて頂けるような講師をお願いしました。一昨年は“もっとうまく論文発表をするために、知って得する講座”を開きました。今年度は、研究への取り組み方についてもお話を伺えると思えます。多くの会員の皆様、そして、将来会員になるであろう助産師を目指している学生の皆様にも是非参加して頂きたいと思っております。

そして、2004年の助産学会をめざしてよりよい研究活動へつなげて頂けたら幸いです。

テーマ：リサーチ・クエッションと研究計画そして論文を仕上げるまで

開催時期：平成14年12月14日(土) 13時30分～16時

開催場所：東京医科歯科大学講堂

講師：三砂 ちづる 先生

国立保健医療科学院 疫学部

参加希望者は下記の郵便振替口座に12月5日までに振り込んで下さい。

参加費：1,500円（会員、非会員ともに）学生は500円

郵便振込先：番号：01730-7-8658

加入者名：第17回日本助産学会学術集会

連絡先：〒902-0076

沖縄県那覇市与儀1-24-1

沖縄県立看護大学 加藤 尚美

TEL&FAX：098-833-8804

Mail：kato@okinawa-nurs.ac.jp



## 第17回日本助産学会学術集会のご案内

第17回日本助産学会学術集会はメインテーマ「うまんちゅぬ<sup>まも</sup>生命、守り伝える助産ケア」をもとに下記のとおり開催いたします。多数の皆様のご参加をお待ちいたしております。

第17回日本助産学会学術集会会長 加藤 尚美

1. 期 日 2003年3月22日(土)~23日(日)
2. 会 場 沖縄コンベンションセンター  
(沖縄県宜野湾市真志喜4-3-1 TEL 098-898-3000)

## 3. プログラム概要

第1日 3月22日(土) 12:50~17:30

- ※会長講演 「異文化と助産活動」  
演 者：加藤 尚美 (沖縄県立看護大学)  
座 長：松岡 恵 (東京医科歯科大学)
- ※特別講演 「たくましい沖縄の「おばあ」に学ぶ」  
演 者：平良 一彦 (琉球大学教育学部教授)  
座 長：島尻 貞子 (琉球大学医学部保健学科)
- ※シンポジウム 「守り伝える助産ケア」  
シンポジスト：屋宜 光子 (屋宜助産院)  
平良 恵子 (かみや母と子のクリニック)  
村上 睦子 (日本赤十字社医療センター)  
座 長：園生 陽子 (沖縄県立看護大学)  
高橋 律子 (高橋助産院)
- \*公開講演会 「性の影としての性感染症/望まざる妊娠の予防をめぐる」  
演 者：熊本 悦明 (性の健康医学財団会長)

第2日 3月23日(日) 9:30~12:00

- ※ワークショップ 9:30~11:00
- 1) [実践] 妊産婦の力をひきだすケア  
座 長：仲西 三枝子 (助産院ていだ)  
八木橋 香津代 (医療法人社団スズキ病院)  
演 者：長谷川 充子 (湘南鎌倉総合病院産婦人科病棟)  
井村 真澄 (タッチケア研究会)  
瀬井 房子 (ベビーヘルシー美富)
- 2) [実践] 出産とアメニティーと安全  
座 長：仲村 美津枝 (琉球大学医学部保健学科)  
山本 智美 (聖母病院)  
演 者：岡野 真規代 (吉村医院)  
平識 悦子 (豊見城中央病院)  
西 智子・新城 和博夫妻 (消費者側から)
- 3) [教育] 助産師教育に期待するもの  
座 長：宮城 万里子 (琉球大学医学部保健学科)  
宮中 文子 (京都府立医科大学医療技術大学部)  
演 者：高島 美奈子 (琉球大学医学部付属病院)  
宮城 章子 (医療法人敬愛会 中頭病院)  
島田 三恵子 (浜松医科大学医学部看護学科)  
神谷 仁 (かみや母と子のクリニック)
- 4) [研究] 助産の質向上のための研究  
座 長：玉城 清子 (沖縄県立看護大学)  
島田 啓子 (金沢大学医学部保健学科)  
演 者：和田 サヨ子 (聖母女子短期大学)

横尾京子 (広島大学医学部保健学科)  
江藤宏美 (聖路加看護大学)

- 5) [チャンプルー討論会] 子育ての文化を伝えよう  
座長: 桑江喜代子 (上村病院)  
話題提供者: 菅沼ひろ子 (宮崎県立看護大学)  
赤嶺政信 (琉球大学法文学部)

※教育講演 「女性の健康に、助産師の強力なリーダーシップを!!」  
11:10~12:00 - Strong leadership by midwife for womens health. -  
演者: Beverly M.Henry (沖縄県立看護大学)  
座長: 堀内成子 (聖路加看護大学: 日本助産学会理事長)

第2日 3月23日(日) 13:00~17:00

※一般演題発表  
口演・示説 (ポスター)

#### 4. 日程概要

	9:30	10:00	11:00	12:00	12:50	13:00	13:50	15:00	16:10	17:30	18:00	20:30
第1日	劇場棟 ホール・会議室						劇場棟 ホール					ホテル
	市民公開講演会				開会式	会長 講演	特別 講演	総会	シンポ ジウム			懇親会
	理事会		評議委員会									
第2日	会議棟				会議棟							
	ワークショップ		教育 講演		昼食	一般演題 (口演・示説)						
	9:30		11:10	12:00		13:00				17:00		

#### 5. 参加費について

- 1) 学術集会参加費  
前納 ①会員 8,000円 ②非会員 9,000円 ③学生 (但し大学院生は除く) 4,000円  
(1月末日までに納入の方に限り学会集録を事前に送付します)  
当日 ①会員 9,000円 ②非会員 10,000円 ③学生 (但し大学院生は除く) 4,000円
  - 2) 懇親会参加費: 5,000円 会場: ラグナガーデンホテル (学会会場に隣接)
  - 3) 参加費振り込み先  
加入者名: 第17回日本助産学会学術集会  
番 号: 01730-7-8658
- ※ただし、一度払い込まれた参加費は返金いたしませんのでご了解下さい。

#### 6. 会場のご案内

沖縄コンベンションセンター  
沖縄県宜野湾市真志喜4-3-1 TEL 098-898-3000 FAX 098-898-2202

〈交通〉

バス利用 (所要時間: 45~50分)

那覇空港発

・系統番号 [120] [124]

宜野湾市真志喜 (ましき)

バス停下車、徒歩15分 (料金: 490円)

・空港リムジンバス "花"

宜野湾ラグナガーデンホテル下車、徒歩5分 (料金1,000円)

タクシー利用

那覇空港より 14km

(所要時間: 35分 料金3000円)

#### 7. 連絡先

〒902-0076

沖縄県那覇市与儀1丁目24番1号

沖縄県立看護大学 母性・助産学研究室

第17回日本助産学会学術集会事務局

TEL & FAX 098-833-8848

## ★…★…★ 各委員会からの報告と連絡 ★…★…★

### 1. 国際委員会 石川 紀子 記

#### 少女および女性に対する暴力撲滅における助産師の役割

— WHO、ICM、ユニセフ、UNFPA、FIGO、Safe Motherhood合同事前会議の

ワークショップ、2002年4月11日～14日、オーストリア ウィーン —

このワークショップには、32ヶ国67人の助産師が参加しました。ここで明らかになったことは、32ヶ国すべての国において、女性は身体的・感情的・精神的および経済的にも迫害されており、女性自身の健康ばかりか、家族の健康状態もその影響を受け、時として死に直面するケースもあるという非常に残念な事実でした。当初は、発展途上国における女性迫害に焦点が当てられていましたが、これはすべての国において共通の問題であり、それぞれの国の助産師は、これを減少・撲滅するにはどうすべきかを考える必要があるということから、グループワークなどでも様々な意見交換がなされました。

まずはどのようなタイプの暴力があるのか、原因は何か、結果どのような健康問題を引き起こすおそれがあるのかなどが討議されました。デリケートな問題であるだけに、暴力という事実の発見でさえ容易ではありませんが、助産師は他の専門職らと協力し合い、女性とその家族や地域社会の現状を把握することにより、被害者の発見だけでなく、暴力行為の防止にも寄与することができるとの意見がだされました。

被害者となった女性への暴力を撲滅するには、助産師自身の個別的かつ長期的な関わりは必要ですが、加えて各団体の政治的介入も必要だということです。特に、国や文化を問わず、暴力とその撲滅についてオープンに話し合える社会を築いていかねばなりません。これにはその問題について社会の高い関心を得るために、どれだけのことができるのかにかかっているということが確認されました。

参加各国の現状を把握する目的で、結婚や出産などについても意見交換されました。女性全体への暴力や妊婦への暴力についても質問が出ましたが、データがないため実態が不明であるという国がほとんどでした。暴力に関する情報がほとんどない、これが現実です。暴力の実態を明らかにし、被害者の数を具体的に表して社会の関心を喚起する必要性が高いことを示していると言えます。

ワークショップの参加者は、今後3年間の活動計画についても話し合い、参加者一人一人があらゆる手段を用いて、暴力の実態について広く社会に訴えることで、人々の関心を引き付けていくという意見で一致しました。まずは身近な職場の同僚や、助産師学生、助産師を育成している施設の教員やカリキュラム編成者らに、実態を伝えていくことで、やがては広く人々にもこの情報が行き渡っていくことが期待出来るでしょう。各国の助産師組織は、この中心となって活動していくべきで、その他政府・非政府組織とも協力していくことの重要性を確認できたといえます。

Ruth Ashton ICM 運営委員は、このワークショップにおける討議を振り返り「私たち助産師は、世界中の女性のために何かを変えられることができるパワーを持っている」ということばをすべての参加者に送り、閉会の辞としました。

### 2. 国際援助システム委員会 毛利多恵子 記

#### 海外研修生の公募

2003年度、「日本の自然で安全な助産」を学んでいただくアジアからの研修生受入事業を行い

ます。今回は、新規事業であり予算の関係上、アジア地域からの受入とさせていただきます。

### 公 募 要 領

対 象 者：助産学会会員からの推薦があること、助産領域の実践者、教育者、研究者、行政関係者で、帰国後、研修成果を自国に適した還元ができると思われる人。

研修期間：2003年10月頃からの1～2ヶ月間（予定）

研修内容：助産の実践能力や、助産の現場を改革できる能力を高める内容とする。

主な研修場所は、助産所、教育機関などの予定。

公募方法：助産学会事務局 国際援助システム委員会宛に下記情報を添えてFAXして下さい。(FAX番号 03-3221-0417)

・推薦者氏名および連絡先、推薦理由

・推薦する対象者情報（国名、職種、所属先、役職、経験年数、現在の仕事内容、英語能力と母国語の種類、研修希望内容）

公募締切：2003年3月15日

選定方法：当委員会および理事会（2003年3月22日）で選考し、採否の結果は、4月下旬までにお知らせいたします。

顔のみえる、温かい研修を企画したいと思います。ふるってご応募、ご協力ください。

### 3. 学 術 振 興 加藤 尚美 記

#### 日本助産学会 委託研究および学術奨励研究助成について

—平成14年度採択課題及び平成15年度応募要領—

助産学の発展を促し、もって我が国の助産学と母子保健の発展を図ることを目的として平成13年度より研究助成をすることになり、現在までに、委託研究助成4課題、学術奨励研究助成4課題を助成した。14年度から、研究者が年度当初から研究を開始できるようにという意図で変更したため、公募期間が短かった事もあってか、応募件数が2件であった。選考委員会及び理事会厳選の結果、以下の1課題が決定した。15年に向けて応募されるよう期待している。

#### 1) 平成14年度 第三回研究助成

応募メ切：平成14年3月20日

応募件数：2件（委託研究助成1件、学術奨励研究助成1件）

採択結果：1件（学術奨励研究助成 30万円）

研究代表者：片岡 弥恵子（聖路加看護大学）

研究課題：ドメスティック・バイオレンス被害者の支援ガイドラインの開発

#### 2) 平成15年度研究助成の公募の予告

応募要領の詳細は次回ニュースレターに掲載しますが、概ね昨年と同様です。

応募メ切：平成15年3月20日

応募申請書（計画書）の請求は日本助産学会事務局迄

#### 4. 編集委員会 島田 啓子 記

- 1) 学会誌第16巻1号(平成14年8月発行)は、例年通り1300部を8月中旬に会員の下に送付した。
- 2) 日本助産学会誌のCINHAL登録が完了しました。各種の資料検索、研究文献などでCINHALをご利用の会員も多いと思います。今後、その検索途上で本学会誌を目にすることができるようになったことは、喜びもひとしおです。更に学術誌としての発展が期待され、助産領域に活用されますように研究論文のご投稿をお待ちしております。
- 3) 学会誌の投稿規程にも記載されていますが、抄録は構造化して記述するようになりました。しかし、未だ規定に沿わないで投稿される論文もわずかにみられます。修正に要する時間など無駄になりますから、会員の皆様のご協力をよろしく御願います。
- 4) 学会誌は年に2回(学会総会および学術集会誌を除き)の発行を継続しています。次回は2003年2月の発行予定です(第16巻2号)。

#### 5. 広報委員会 丸山 知子 記

- 1) 9月5～6日旭川市において第43回日本母性衛生学会学術集会が開催されました。そこで、セーフマザーフット募金活動を日本看護協会、日本助産師会、日本助産学会の3団体で行いました。その結果14万円の募金が集まり、3団体連名で送金することになっております。  
また、本学会から教育講演「助産師業務の社会的地位と国際比較」近藤理事、シンポジウム「これからの助産師教育のあり方」では、竹内理事、加納理事もシンポジストとしてご発表されました。
- 2) 今回のニュースレターでは、番内和枝氏に2回連載で先生のご活躍の中からエッセイをお願い致しました。ご多忙にも関わらず快く寄稿下さいましたことを心より感謝申し上げます。皆様からも多くの声を頂きたいと思っておりますので、ぜひ全国からの記事をお待ちしております。

#### 6. 庶務 多賀 佳子 記

- 1) 会費未納(平成13/14年度分)の方は、早急に下記宛お振込お願いいたします。  
振込先(郵便振込) 00100-5-83244 日本助産学会  
住所等変更届はその都度、早めに事務局へご一報下さい。
- 2) 学会誌第16巻1号の119頁に、訂正箇所があります。  
日本助産学会運営および事業推進表の、国際援助システムの幹事・委員氏名の嶋崎氏は、嶋澤恭子氏の誤りです。  
お詫び申し上げ、訂正させていただきます。